

第3分科会

家庭・地域で

“わたし”が主人公？！

ジェンダー平等の視点で・・・

助言者 谷森 櫻子 (人間と性教育協議会本部幹事)
司 会 細野千鶴子 (新日本婦人の会新座支部)
記 録 笠原 咲子 (新日本婦人の会新座支部)



助言者より

ジェンダーとは

生物学的な性別のセックスに対して、ジェンダーとは社会的な性別のことです。日本にはまだまだ社会的に男女の差別や偏見があると思います。女性に対してだけでなく、男性に対しても。

次の文章を読んで質問に答えてみてください。

「ある大学病院に有能な外科医がいました。その外科医に手術をしてもらおうと全国から患者が集まってくるほどの知名度です。ある日その外科医のもとに交通事故にあったという親子が運ばれてきました。親子を見て外科医はびっく

りしました。なぜならば、交通事故にあったのは自分の子供とその父親だったからです。」

質問です

この外科医と交通事故にあった子ども、その子の父親の関係はなんでしょう？素直に考えれば、子どもの親には父親と母親がいるわけですから、外科医は子どもの母親で、その子の父親の妻ということになります。有能な外科医=男性と考えてしまうとはてな？と考えてしまうかもしれませんが、職業に男女の差はないのです。

助言者の基調報告

- ・ジェンダーとは生物学的な性別に対して、社会的、文化的に作られた性別のこと。ジェンダー平等は世界の流れ。
- ・日本のジェンダーギャップ指数は2011年98位から2012年101位に下がっている。」
- ・男女平等参画審議会 新座市の女性登用→国の目標35%、新座市26.7%
- ・若い女性の主婦願望が増えている36%→46.3%
- ・生物学的な男女の別からはみ出る人（マイノリティ）が増えている。

参加者の自己紹介

Tさん・・・年金者組合の役員をしているので、いつも社会保障の分科会に参加しています。今回初めてこの分科会に参加しました。男女の働き方が、老後の年金にかかわってくるので女性の働き方は、大切な問題だと思います。身近な問題では町内会の役員などもっと女性の参加をと思っています。

Hさん・・・社会的な活動をしながら、母親の役割を100%果たすのはつらかった。「平等に」という点で我慢してきた。

Tさん・・・家事の分担、食事は夫、洗濯は妻（自分）などしています

Mさん・・・夫婦間の男女平等はあまり関心はないが、ジェンダーの基本について学びたいと参加しました。

討論の中から

・産前産後休暇日数手当など制度上では進んでいるが、職場の実態は前より後退している。人を増やさないので制度が使えない

・労働組合は労働者より経営者寄り。働く人が分断されている。教育現場も臨時が増え、先生たちの労働強化はひどい状況になっている。

・「あまちゃん」のドラマで家族をそれぞれ名前呼んでいたのが印象的。次世代の子育てはジェンダーフリーで。性による制限をできるだけなくすこと・・・持ち物の色、役割、らしさ、など子どもの発達、可能性を男女で区別、制限しない。

・親や大人が子どもの選択に寄り添い、子どもと共に考えあうことが求められている。

申し合わせ事項

- 1 人間らしく生きるためにジェンダー平等を実現しましょう。
- 2 男性も女性も自立し、支えあいながら、町内会や防災組織作りなどに積極的に参加しましょう。

市への要望事項

- 1 ジェンダー平等や民法についての、公民館の講座を開設してください。市民にアピールしてください。
- 2 公民館の使用料を原則無料に戻し、地域のだれもが安心して学び、集える場にしてください。
- 3 市の職員の正規雇用を増やしてください。審議会委員や管理職に女性の登用を増やしてください。
- 4 DV 被害者のシェルターを設置してください。